

この時、交野は動いた

「我が、交野車塚古墳群からのお知らせ」

古墳のことは、高塚ともいう。

前方後円墳・前方後方墳、円墳、方墳、帆立貝式古墳、双方中円墳、八角墳など様々な形があり、地域や時代によって異なる。

交野で発見されている古墳は、前方後円墳・前方後方墳、円墳、方墳である。

全国、数ある古墳（約30万基）だが、葬られている人は相当な権力者であったことは一見ただけで誰れもが感じることである。

でも古墳時代の古墳からは、被葬者の名を記したものは、まだ一例も出ていない。

もし、古墳が、だれの墓であるかを書いた金石文でも発見されたら、いろいろのことが明らかになってくるのに、いままで発見されたことがない。

また、埋葬品などから、当時を知る手がかりがつかめるかもしれないが、盗掘や壊されてしまったケースもある。

古墳の周囲に並べられたものが、埴輪である。

古墳の上には、**建物**や人物、あるいは、馬や牛、鹿、猪、魚、鳥などの動物の形の埴輪が置かれ、外側には、**円筒埴輪**が置かれていることが多い。

車塚古墳群から



短甲埴輪



手前、円筒埴輪



家形埴輪

埴輪については、死者の魂を慰めるためのもの、死者があの中世で不便にならないようにするためのもの、墳丘への侵入、崩れを防ぐなど、諸説ある。

桜井茶白山古墳（前期）発掘調査内容から一部抜粋

埋葬施設は後円部の頂上のすぐ下にあった。

石室内は、盗掘をうけたため、遺物は破片しか残っていなかったが、それでもこの被葬者の生前の持ち物の豪華さの一端を知ることができる。

直径1寸もある樹齢千年以上の巨木を加工して、長さ5寸の木棺がつくられていた。

銅鏡十数面、硬玉製勾玉・碧玉製管玉・ガラス製管玉などの玉類、鉄製の剣や鎌などの武器類、そして玉杖・玉葉・車輪石と鍬形石（腕輪）などの碧玉製品があった。

なかでも玉杖は碧玉製品で、ステッキの頭に飾りをつけたような形をしており、棒の部分には鉄棒を芯にしていた。

これはほかの古墳では知られていない遺宝中の遺宝である。

まさに帝王級の被葬者の権威を示すのにふさわしい持ものである。

このように、古墳の内部からは、鏡・玉・剣をはじめ農具・工具などが発見「副葬品」と呼ばれるこれらの品々は、それぞれに、どんな意味をもつものだろうか。

これらを、たんなる物品としてみるのではなくて、古墳の被葬者の、またはこの被葬者である族長を葬った人びとのなんらかの意味的な行為の表現と解するとき、それらはみな生き生きとしたイメージをおびてくる。

それは、四世紀という謎に包まれた時代の、上は天皇から下は地方の族長におよぶ、広い意味での族長たちの生活や思想の表現であり、当時の歴史の主体であった族長層の生活や思想をさぐる糸口である。

日本の歴史（1.神話から歴史へ）より

でてまっせ交野の古墳からも



朝日掲載（1988.11.11.）



現説時



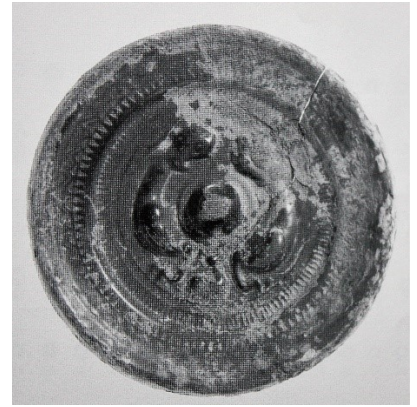
三角板皮綴襟付短甲



四乳四獸鏡 (船載鏡)



四獸鏡 (仿製鏡)



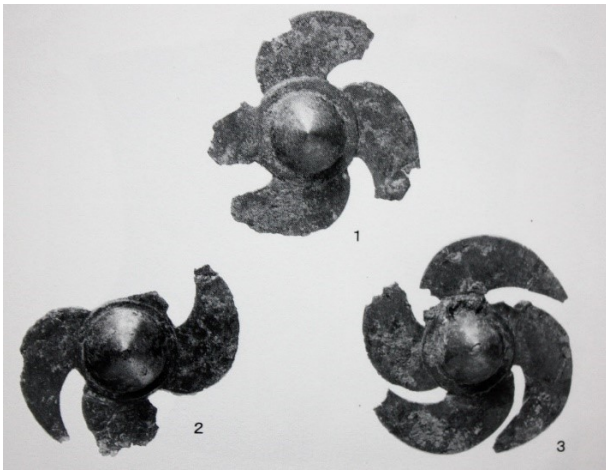
盤龍鏡 (仿製鏡)



玉類



鐵劍・鐵刀・石劍



巴形銅器



錐・鑿・鈹



鐵劍・鐵刀

交野からも王者の杖!

王者の杖 部分出土

府教委調査 伝承地の近く

交野(大阪)に物部氏の古墳?

よみうり掲載 (48.1.12)

巴形銅器

筒形銅器

東車塚古墳試掘調査で出土 (47.12.)

オッサンのひとり言や

- 東車塚古墳の被葬者は誰だ、誰だ、誰だ、交野地方の族長か、今でいう市長クラスか
- 物部一族と言っておけば良いのかは、○か×か
- 古墳築造にはかなりの労働力が、もちろん交野民も参加していたのだろうか
- 多くの出土副葬品から見て、誰が、どのようにして、集め、族長に納めたのか
- 交野東車塚古墳の場合、8寸の割竹形木棺跡発見、どこで伐採し、加工したのか
- これは偉い人やでい、前期と中期古墳に時代差があっても
- 平地の古墳なのに未盗掘で、崩されてなかったのは
- こんな立派な古墳が残っていた、残った、残っていた、我々の誇りか



第3号古墳 (日の丸古墳)



主体部、粘土槨で覆われた木棺跡

参考資料:交野東車塚古墳 (調査編)